

令和8年度 第2回三木市総合教育会議 議事録要旨

日 時 令和8年8月10日（月） 午後2時～午後3時

場 所 三木市役所 5階 大会議室

出席者 ・ 構成員

仲田市長、大北教育長、石井委員、梶委員、稲見委員、西岡委員

・ 事務局

赤松総合政策部長、森田教育総務部長、山口教育振興部長、堂元企画政策課長（司会進行）、田中教育総務課長、大塚教育施設課長、大西生涯学習課長、河端図書館長、大西文化・スポーツ課長、伊藤文化・スポーツ課主幹、武内学校教育課長、仲谷小中一貫教育推進室長、荒田教育・保育課長、小池教育センター所長、小柳学校教育課副課長

議事録

1 開 会

2 市長挨拶

（仲田市長）

皆様、こんにちは。本年度2回目の総合教育会議となります。よろしくお願いします。

前回、5月22日に開催した1回目の会議では「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」、いわゆる「給特法」の改正に伴い、教育委員会が策定した「業務量管理・健康確保実施計画」について報告があり、教員の勤務状況の現状等について共有いただきました。今後もしっかりと検証し、次の取組につなげていただきたいと思います。

先日、教育センターで開催された「Miki Education Days」の取組が新聞で紹介されていました。他市からも注目される取組であり、多くの教育関係者が参加されたと聞いています。教員の皆様におかれましては、絶えず研鑽に努めていただき、教育の質の向上に取り組んでいただきたいと思います。

また、5月に開催した1回目の会議におきましては、豊地小学校の今後の在り方についても議論させていただきました。統合に当たっては、子どもを中心に据えて考える、これまでの長い歴史の中で続いてきた地域とのつながりを今後も大切にしていける、保護者や地域のかたに丁寧に説明していく、このような内容で進めさせていただきました。その後、6月末に教育委員会において地域への説明会が行われたところです。

本日は、地域への説明会の開催結果について、事務局からの報告の後、意

見交換を行いますので、どうかきたんのない御意見をお願いしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

3 教育長挨拶

(大北教育長)

皆様、こんにちは。

6月19日と20日に三木市総合体育大会が行われました。子どもたちが本当に生き生きと活動していました。また、温かなまなざしを向けておられる指導者の姿を見て、胸を打たれました。部活動を通じ、子どもたちがかけがえのない経験をし、たくさんのことを学ぶことができる本当に意義のある大切な取組を現場で進めていただいていることをあらためて感じました。

このたび、部活動の終了という大きな変化が目前に迫っています。今後、部活動が終了した後も、全ての子どもに居場所があり、これまで部活動で得ていた学びを保障できる学校をどのように創っていくのか、新しい局面を迎えつつある中学校を捉え直すため、教員は日々研鑽に努めているところです。

いよいよ、令和9年12月をもって部活動が終了し、令和10年1月から「みきティブ」が全面展開となります。教育委員会では「みきティブサポートセンター」を立ち上げ、地域クラブの運営をサポートする体制を築きながら、地域クラブの展開を進めてまいります。本日は、その進捗状況や直面している課題について共有させていただきます。

また、2つ目として、豊地小学校の統合に係る方針や進め方について意見交換させていただきます。6月末に2回にわたり地域への説明会を開催しました。子どもを中心に据えて学校の在り方を考え、豊地小学校の統合を決断しようとしていることについて、地域の皆様から一定の理解が得られたものと捉えています。今後、子どもの学びや思いを大切にし、一つ一つのステップを丁寧に踏みながら、スピード感を持って統合を進めていくことができるよう、市長とともに前向きな議論を行ってまいりたいと考えています。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 報告事項

三木市地域クラブ活動「みきティブ」の進捗状況について

(仲田市長)

「みきティブ」の進捗状況につきまして、令和10年1月のスタートに向けて取り組んでいる中、このたび、「みきティブサポートセンター」も立ち上げられました。「みきティブ」については、これまでの総合教育会議においても議論させていただいていますが、あらためて進捗状況を確認し、御意見をお伺いしますので、よろしくお願いいたします。

それでは、事務局から説明をお願いします。

(伊藤文化・スポーツ課主幹)

文化・スポーツ課の伊藤です。よろしくお願いします。

それでは、資料1を御覧ください。

「みきティブ」の認定団体につきまして、7月30日時点で、スポーツ団体が35団体、文化芸術団体が17団体、合計52団体となり、当初の目標である50団体を上回っています。ダンス、空手、囲碁、将棋など、これまでの学校の部活動にはない種目も増えてきています。

次に、「みきティブサポートセンター」の設置につきまして、教育委員会では、各クラブを統括し、運営・管理業務の中核部分を担う組織として、「みきティブサポートセンター」を設置しました。クラブの運営に当たり、クラブの指導者の懸案事項の一つとして、指導以外の事務的な作業負担が挙げられていたことから、指導者が子どもたちの指導に専念できる環境を整え、クラブを持続させるとともに、新たなクラブの設立にもつなげてまいります。

続いて、「みきティブサポートセンター」の実施事務につきまして、運営に関する各種相談、指導者研修、入会者の管理、会費の徴収、指導者謝金管理を行うことができるアプリを提供します。アプリには7つほどの機能が入っており、携帯電話で操作できるようになっています。

アプリの導入時期につきまして、本年中に事業者を決定し、令和9年1月から3月頃にモデルとなる1団体を選定し、試験運用します。その後、4月に全クラブにおける本格運用につなげてまいります。

本年度の予定につきまして、拠点校2校へのスマートロックシステムの導入及び「みきティブフェスティバル」の開催を予定しています。スマートロックシステムは、玄関付近に設置し、職員を介さずにロックを解除できるシステムです。また、「みきティブフェスティバル」においては、ステージ部門と各クラブのブースを設置し、地域クラブの周知・PRを行います。

地域展開の課題につきまして、地域クラブの活動場所が人口の多い地域に偏ってしまうこと、人口の多い地域において人気のある活動場所が重複してしまうこと、平日は学校の授業の終了後の夜間に活動する場合があります、屋外における活動時間を確保するための夜間照明が必要となること、学校の部活動に比べ、月謝や送迎などの保護者の負担が増えるため、保護者の協力が不可欠であることが挙げられます。

また、「みきティブ」の情報を分かりやすく伝えるため、専用のホームページを作ることも必要であると考えています。

(仲田市長)

ありがとうございました。

確認ですが、拠点校については三木東中学校及び自由が丘中学校の2校に加え、吉川地域に新しくできる小中一貫校も該当するという認識でよろしいでしょうか。

(大西文化・スポーツ課長)

そのとおりです。

(仲田市長)

「みきティブ」の認定団体については、令和9年度までに60団体の登録を目標としている中、職員等の努力もあり、既に52団体が登録され、地域偏在等の課題はあるものの、登録団体数としては順調に進んでいるところです。

「みきティブ」について御意見がありましたら、よろしくお願いします。

(稲見委員)

稲見です。よろしくお願いします。

地域クラブに関する課題がいくつか挙げられました。本格スタートが近づく中、ハード面やソフト面など、さまざまな課題がありますが、大きな課題については早めに対応する必要があります。これまでとは異なり、授業が終わったらすぐに活動できる状態から、夜間に活動する状態に変わる点が特に大きな変化であり、課題となっています。活動の時間帯を踏まえると、照明器具は必要な設備です。一方、これまでの学校に照明器具はなかったことを踏まえると、地域の理解も得ながら進めていく必要があります。早めに方向性を決め、学校周辺の地域住民の意見も聴きながら、取り組んでいかなければならないと考えます。

また、市街地に地域クラブが増えることは当初から想定されていましたが、やはり農村地域は活動会場とするクラブ数が少ない状況です。52団体の登録がある中、できる限り広い活動範囲で取り組んでいこうと考えておられると思いますが、地域クラブのスタートに当たり、ある程度は各クラブに委ねる部分もあると思いますが、できる限りサポートセンターに支援いただき、できる限り農村地域も活動エリアとしてもらえるよう、助言いただくようお願いします。

そして、移動手段についても、当初から大きな課題となっています。この課題をどのように捉えるのか。保護者側の課題として捉えるのか、または、地域クラブを推進する側の課題として捉えるのかについて、明確にしていく必要があります。移動については保護者側で担うという考えがあります。教育委員会が送迎バスを運行することも難しいと思います。そうすると、学校が終わったら、そのまま学校で活動できるような取組をどのように進めていくのかという点が重要なポイントとなってきます。これについては、地域クラブを推進する側の課題であると考えます。この点については、今後も引き続き、検討いただきたいと思います。

また、以前の総合教育会議においてもお伝えしたとおり、情報発信についても工夫が必要です。情報を発信しているつもりでも、受け手がその情報を受け取っていないことがよく見受けられます。地域において全戸回覧や全戸配布により周知しても、「知らなかった」という住民もいます。多くの人に

取組を知ってもらうため、どのように情報発信していくのが重要です。地域クラブの情報について、現在は市ホームページに掲載されていますが、ぜひ専用のホームページを作成いただき、そのページにアクセスすれば、地域クラブに関する情報や資料を見ることができるようにしていただきたい。デザインのきれいなホームページでなくても、必要な情報を入手できるホームページであれば、十分であると思います。サポートセンターには情報発信の業務が含まれていないようですので、進め方については検討の余地がありますが、ぜひ専用のホームページを作っていただきたいです。

(仲田市長)

ありがとうございました。

照明器具の設置に当たっては、地元にも説明していかなければならない点と、地域クラブの地域偏在や移動手段の課題はセットで考えていく必要がある点について、御意見をいただきました。

ホームページについては、専用ホームページを作ることも必要であるという事務局からの説明もありましたので、引き続き、検討を進めていただきたいと思います。

ほかに御意見はありますでしょうか。

(石井委員)

地域クラブについては、既存の部活動ではないという観点で議論がスタートしています。学校の部活動は終了し、新たに地域クラブを地域で展開することが本来の方向性です。移動手段やどこで活動するのかという点が課題として挙げられていますが、地域クラブ自体がいわば家庭での習い事の位置付けとなっています。したがって、まずは、各家庭で責任を持ち、主体的に地域クラブを選んでいくことが望ましいと考えます。地域クラブの種類や数が増えれば、子どもたちが選択できるようになります。また、個人的な考え方ですが、もし近くに希望する地域クラブがない場合は、新しい世界に飛び込むチャンスであるという考え方もできると思います。

また、団体競技について、子どもの人口が減少する中、人気のあるクラブに子どもが偏ってしまうと、子どもの取り合いが起こるのではないかという懸念も出てきます。全国的にも地域によってはそのような事態が起こっています。このような課題については、サポートセンターがいち早く情報を取り入れ、対応していく必要があると考えます。将来的には、例えば、団体競技のチーム数の制限などのルール作りも必要となる可能性があると思われます。

(仲田市長)

地域偏在のみならず、人気のあるクラブに偏りが生じる懸念について、御意見をいただきました。事務局においても将来的な課題として認識していると思いますので、引き続き、検討をお願いします。

ほかにございますでしょうか。

(西岡委員)

52団体という多くの地域クラブが立ち上がったことは、たいへん喜ばしいことです。また、これまでの部活動にはない選択肢が増えたことも嬉しく感じています。

一方、保護者としては、会費や送迎の負担に不安を感じています。なんとか負担が減るようにしてほしいという思いがある一方、これまでの部活動から在り方が変わっていくことについて理解する必要もあると感じています。

「みきティブ」の取組が進んでいくと、保護者が現実的な負担を実感する場面も出てくると思います。その中で、親として避けたいことは、保護者の負担を理由に子どものやりたいことができなくなることです。このような事態は、親としてとても辛いことです。「みきティブ」の取組を進めながら、新たな工夫や手法を検討し、対応してほしいです。保護者の負担が減り、子どもも思い切り活動できる環境の整備を模索してほしいです。

(仲田市長)

ありがとうございました。

はい。どうぞ。

(梶委員)

地域クラブについて、学校の部活動をそのまま地域に持っていくものではないことは、これまでも議論してきました。

地域クラブは、地域の中で子どもを育てていく活動です。この活動がうまくいくということは、三木市の教育がうまくいく原動力となります。学校教育だけでなく、地域の教育や生涯学習なども含めた教育につながっていく可能性を秘めています。「みきティブ」の登録団体が順調に増えていますが、クラブ数が増えたからよいということではなく、三木市の教育の大きな原動力になるという思いを持ち続けることが重要であると考えます。地域クラブは、学年や校区を超えた活動となります。また、10年、20年が経過すれば、世代を超えた活動となります。地域クラブで活動した子どもが成長し、今度は地域や活動を支えるリーダー、ボランティア、指導者となっていきます。このような流れが生まれてくるということです。この流れが三木市で教育を受けさせたいという大きな力になることが期待されます。そのために、今、一步ずつ着実に歩みを進めている段階であります。

さまざまな課題がありますが、元気な子どももいれば、控えめな子どももいます。大きな集団で力強く活躍できる子どももいれば、大きな集団は苦手で、小さな集団で活躍できる子どももいます。いろいろな子どもがいる中、子どものニーズをモニタリングしながら、分け隔てなく、子ども一人一人がしっかりと活動できる地域クラブにするとともに、サポートセンターにもこのような思いや視点を持って取り組んでいただきたいと思います。

また、情報発信も重要です。全ての市民に地域クラブの活動を知ってもら

い、他人事ではなく、なんらかの形で応援いただき、活動に関わっていただくことが大事です。ホームページの立ち上げに加え、SNSによる情報発信も欠かせません。地域クラブの活動が進んでいくと、SNSを通じてさまざまな情報が発信される可能性があります。その中で、公式の情報発信が最も信頼できるリソースとなりますので、ホームページに加え、SNSによる情報発信の検討も進めていただきたいと思います。

(仲田市長)

SNSによる情報発信など、正しい情報をしっかりと周知していくことが大事であると認識しています。

また、送迎や会費など、保護者の負担に関する御意見もいただきました。

地域クラブは部活動ではない点や、送迎は保護者が担うものであるという点については、保護者のかたにもしっかりと御認識いただきたいと思います。

一方、家庭の事情で送迎できないかたへの対応については、サポートセンターの取組の中で考えていく必要があるのではないかと感じました。

教育長、どうぞ。

(大北教育長)

市のホームページに「放課後革命、始まる。続けよう、夢中になれること！」というキャッチフレーズを掲載しています。先日、社会教育委員会を開催したところ、中学校の校長先生から「放課後が自由になることは、中学校が始まって以来の出来事であり、生徒は放課後の過ごし方に戸惑っていると思われる。地域クラブや塾に通う子どもはよいが、どこにも行くことができない子どももいる。そのような子どもは、暑くもなく寒くもない快適な部屋にこもり、ゲームをすることになる。」という話をお伺いしました。

少子化により各学校において部活動が成り立たなくなってきたことや、教員の働き方改革の必要性もあり、地域クラブを展開することになりましたが、学校教育として学校で取り組んできた部活動の取組が、地域クラブとして地域における社会教育の位置付けに変わったときに、子どもたちの行動がどのように変化するのかが重要な視点になるのではないかと考えます。

地域クラブに所属する子ども、あえて所属しない子ども、所属したいができない子どもなど、一番大切にしなければならない子どものことについて、将来的に調査し、検証し、課題を把握するなど、子どもの成長に合わせた教育的な施策をどのように講じていくのかを検討する必要があるのではないかと考えます。

また、社会教育として、地域に貢献できる持続可能な人材育成を進めていきたいという思いもあります。地域クラブで学んだ子どもが成長し、やがて後輩を育成していくようになれば、学校教育から社会教育に位置付けが変わった意義が感じられると思います。子どもたちがどのように成長していくのかについて、しっかりと検証していく必要があると感じています。

(仲田市長)

地域クラブについてはさまざまな課題がありますが、先進事例や他市の事例を踏まえつつ、課題を解消しながら、入りたいクラブに入ることができる取組にしていきたいと思います。

5 報告事項

豊地小学校の統合に係る教育委員会の方針（案）に関する住民説明会の開催結果について

(仲田市長)

豊地小学校につきまして、前回の総合教育会議における議論の後、6月に地域への説明会が行われました。説明会の開催結果や今後の方針について、事務局から説明をお願いします。

(武内学校教育課長)

学校教育課の武内です。よろしくお願いします。

それでは、資料2を御覧ください。

6月27日と30日の2日間にわたり、細川町公民館において、豊地小学校の統合に係る教育委員会の方針（案）に関する住民説明会を開催しましたので、開催状況について報告します。

参加者について、傍聴人も含め、2日間で合計49人の保護者及び地域のかたに参加いただきました。

豊地小学校の統合にかかる市教育委員会の方針（案）について、事務局から3点を説明しました。

1点目は、統合校についてです。統合後の児童数をはじめ、教育活動の充実、地域との連携、通学環境などを総合的に判断し、豊地小学校の隣接校区である三木小学校との統合が妥当であること、また、スクールバスによる通学を検討していることを説明しました。

2点目は、統合時期についてです。児童数の減少が顕著で、喫緊の課題であることから、スピーディーに統合準備を進める必要がある一方、これまでの学校の統合実績を踏まえると、統合の準備に一定の期間を要することから、統合時期を令和10年4月とすることを説明しました。

3点目は、統合準備委員会の発足についてです。豊地小学校及び三木小学校の保護者の代表者、地域の代表者、学校の代表者、市教育委員会の4者で統合準備委員会を構成すること、また、総務部会、PTA部会、通学・安全部会及び学校運営部会の4つの部会で分担して協議する協議体制を説明しました。

質疑応答において、参加者から、次の御意見や御要望をいただきました。

児童数の少ない学校が児童数の多い学校に吸収されるイメージではなく、2校が新たな学校文化を創造するイメージで統合を進めてほしい。これまで

豊地小学校が大切にしてきた地域とのつながりや細川地域の伝統や文化を統合後も大切に、学校と地域とのつながりがなくなることがないようにしてほしい。児童や保護者が学校の様子を事前に見学できる機会があるとよい。統合に係る検討内容や決定事項については、保護者や地域に分かりやすく周知してほしい。現在、事務局が想定している通学ルート上には、交通渋滞が起こりやすい箇所があるため、交通渋滞の緩和について関係機関に働きかけるなど、児童の通学に係る負担をできる限り軽減してほしい。統合に係る児童の心理的負担をできる限り軽減できるよう、教員及びスクールカウンセラーの配置等についても配慮し、児童のメンタルケアに努めてほしい。

以上のように、たいへん貴重な核心を突いた御意見や御要望をいただくとともに、方針（案）に対する反対意見はなかったため、保護者や地域の皆様から一定の理解をいただくことができたことと受け止めています。

しかしながら、いつも目の前にあった地域の象徴である学校がなくなるといふ地域のかたの寂しさや切実な思いを真摯に受けとめるとともに、子どもを中心に据えた望ましい教育環境の構築をめざし、円滑な統合を進めていかなければならないと考えています。

今後の予定につきまして、8月21日に開催予定である教育委員会の定例会議において、「豊地小学校の統合に関する実施方針」を策定し、豊地小学校と三木小学校の統合を正式に決定したいと考えています。

また、令和元年10月3日に市教育委員会が策定した「三木市立小中学校の学校再編に関する実施方針」において、学校の統合に関する基本的な考え方を示しています。子どもを中心に据えて考える。小学校も含め、三木市全体で考える。一定の集団規模、すなわち1学年2学級以上の規模を確保するように努める。統合を進めるに当たり、保護者や地域の御意見をお聴きし、理解と協力を得ながら進めるなどの内容が記載されています。このたびの豊地小学校の統合についても、この基本的な考え方に基づくものとなっています。

なお、「豊地小学校の統合に関する実施方針」においては、豊地小学校は令和10年度に三木小学校と統合すること、統合準備委員会を立ち上げ、円滑な統合に向けた準備を行うこと、また、統合準備委員会は4つの部会で構成することなどを記載しようと考えています。

今後、9月に統合準備委員会を立ち上げ、統合に向けた準備に取り組んでまいります。

（仲田市長）

ありがとうございました。

5月に開催した総合教育会議における協議の後、6月に2回にわたり地元説明を行いました。事務局の説明によると、反対意見はなかったということであり、子どものことを考えて早く統合すべきであるという地域の御意見であったと受けとめています。

今後、8月21日の定例教育委員会において実施方針を決定し、9月に統合準備委員会を立ち上げ、4つの部会で進めていくということです。

それでは、皆様の御意見をお伺いしたいと思います。

(石井委員)

統合に当たっては、子どものメンタルを最優先に考えていただきたいと思います。

三木市では令和3年度と令和4年度に学校の統合を経験していますので、統合の経験のある現場の教員の生の声を生かし、統合を進めていただきたいと思います。統合に際し、学校現場において実際にどのようなことが起こり、具体的にどのように対応していくのかなど、しっかりと共有いただきたいと思います。統合の方針においては基本的な方向性が示されていますが、実際に統合を進めていく際は、より現場に近い教員の生の声を生かし、先生がた同士でこれまでの統合の経験を共有する機会を設けていただき、このたびの統合に関わる教員に直接伝わるよう工夫してほしいと思います。

また、どのような取組をしているのか、統合後の子どもの反応はどうであるかなど、保護者や地域に常に分かりやすく情報発信いただき、安心感につなげてほしいです。

(仲田市長)

ありがとうございました。

これまでの学校の統合の経験を生かし、統合に関わった先生がたの経験や生の声をしっかりと聴きながら、よりよい統合にしていかなければならないと思います。

(稲見委員)

私も説明会を傍聴させていただきました。小学校の統合の話となると、特に、年配のかたから「地域から学校をなくして、地域を廃墟にするのか」という意見が出そうなものですが、細川地区の年配のかたは若い世代の意見を尊重する意見であり、とても素晴らしかったと思います。その上で、反対意見ではなく、統合に向けた一歩先の課題を協議する内容でありました。

地域が心配していることは、やはり子どものことです。10人程度の児童がいる学年もありますが、1人しかいない学年もあります。その1人の子どもを統合後の学校はどのように受け入れ、どのように三木小学校の子どもたちと仲よく学校生活を送ることができるようにするのかということを心配しています。

そういう観点から、対等な形で統合してほしいという意見が出されていますので、丁寧に対応いただきたいと思います。

また、統合がどのように進んでいるのかなどの進捗状況については、しっかりと共有してほしいです。細川町豊かなまちづくり推進協議会では豊地小学校の在り方検討委員会を設置しておられ、地域住民向けに情報発信されています。市の情報発信と町の情報発信をうまく組み合わせ、統合準備の進捗情報が住民に届くようにお願いしたいです。

(仲田市長)

ありがとうございます。

そのほかに御意見がありましたら、お願いします。

(西岡委員)

吉川地域の小学校の統合の経験を踏まえると、子どもの心のケアや、子どもの不安を取り除くような取組をしっかりと進めてほしいです。私も統合を経験しましたが、統合先の学校に知っている先生がおられたので、子どもや保護者はとても心強く感じました。先生がたの配置も重要であると感じました。

また、通学などの課題もありますが、課題を解消しながら、安心して通学できる環境を整えていくようお願いしたいです。

(仲田市長)

ありがとうございます。

はい。どうぞ。

(梶委員)

学年に1人しか児童がいない場合は、やはり転校のような雰囲気となってしまいますので、安心して学習できるような取組を第一に進めていく必要があります。

住民説明会で地域のかたから御意見があったように、吸収統合ではなく、新しい学校づくりを進めるという発想をだれもが持ちながら、前に進めてほしいと思います。

学校の統合に当たり、子どもたちは不安を感じることを思います。新しい学校に行ってみて、新しい夢が生まれ、不安が安心に変わっていくような体験や体感が得られるプログラムづくりや学校づくりについて、地域の意見を踏まえながら検討いただきたいです。

(仲田市長)

子どものメンタルケアに関する御意見をいただきました。統合先に知っている先生がいると安心できるという意見を伺い、たしかに重要であると感じました。令和10年度の統合を見据えた教職員の人事については、既に教育委員会において検討していると思いますが、子どものメンタルケアを最優先とした人事配置を検討いただきたいと思います。

教育長、いかがでしょうか。

(大北教育長)

吸収統合でないことについて、形として示さなければ、なかなか子どもたちや保護者のかたにうまく伝わらないと思います。2つの学校の交流といっても、豊地小学校が三木小学校に移ることから、豊地小学校のほうが三木小

学校へ見学に行く形となりますと、吸収統合のように捉えられてしまいます。そうではなくて、なんのために交流するのかというと、両方の学校文化を融合させ、新しい学校文化を創っていくことが目的です。豊地小学校の子どもが三木小学校のことを知る。また、三木小学校の子どもが豊地小学校のことを知る。このような双方の交流が重要であり、形としても、実質としても大事であると考えています。統合する2つの学校文化を融合する視点が重要となります。

また、新しい学習指導要領の本格実施が令和10年と言われています。これに併せて、いろいろなことが学校教育の現場で変わっていきます。このたびの学校の統合と、新しい学習指導要領の実施があいまって、新しい学校の在り方を創出できるのではないかと期待しています。豊地小学校でも三木小学校でもない、新しい学校を創っていく。その中で、学校は楽しいと子どもたちに思ってもらえることが重要です。いろいろな友達と一緒に学ぶことができて楽しい。いろいろな友達の多様な考え方に触れることができる。このような新しい学校を創っていくことができるよう、教育委員会と学校現場が一体となって努力していきたいと考えています。

(仲田市長)

ありがとうございます。

やはり学校は子どもたちのためのものですので、2つの学校の相互交流や2つの学校文化の融合をお願いしたいと思います。

また、情報発信や情報共有が重要となりますので、教育委員会においても知恵を絞って対応してほしいと思います。

はい。どうぞ。

(石井委員)

統合に当たり、特に、豊地小学校の高学年の子どもたちは1、2年後には中学校に行くことになります。つまり、子どもたちを取り巻く環境が短期間で大きく変わるようになります。したがって、小学校だけでなく、中学校に進学した後も、子どもたちを引き続き見守っていくことができるよう、学校現場において配慮していただきたいです。

(仲田市長)

ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

皆様、御意見、ありがとうございました。

吉川地域の小学校の統合については、統合してよかったという声が寄せられています。このたびの統合においても、地域や保護者の皆様からよかったと言ってもらえるよう、教育委員会においては丁寧な説明をお願いしたいと思います。

また、「みきティブ」についても、先進事例を踏まえながら、課題の解決

につなげていただきたいと思います。

本日は、長時間の御協議、誠にありがとうございました。